

2025 年9月14日 敬老の日礼拝(聖霊降臨節 第15主日礼拝)

メッセージ「老いた者には知恵がある」

牛田匡牧師

聖書 列王記 上 3章1-15 節

明日 9 月 15 日が「敬老の日」ですので、今日は一日早いですが、この久宝教会でも「敬老の日」として、特別養護老人ホーム「大阪好意の庭」と「第二好意の庭」の皆様と一緒に、礼拝を行えますことを嬉しく思います。

皆様はこれまでの歩みの中で、神様に何か「お願い事」をされたことはおありでしょうか。「神頼みなんてしない」とおっしゃる方もいるかもしれませんが、お正月の「初詣」や、小さなお子さんの健康と成長を願う「七五三」などに代表されるように、家内安全、健康・長寿、商売繁盛など、様々なお願いをされる方が多いかと思いますし、それこそ受験シーズンになれば、志望校への合格を祈願される方も多いのではないかと思います。そうした、それらのお願い事は、どのような形で皆様の歩みの中で実現されたでしょうか。人によっては「願いが叶えられた」人もおられるかもしれませんが、「叶えられなかった」と言う人もおられるかもしれません。いかがでしょうか。

今回の聖書のお話は、ソロモン王のお話でした。ソロモン王というのは、今からおよそ 3000 年前の古代イスラエル王国の王様です。父ダビデ王と並んで国を大きく繁栄させた王様として有名です(マタイ 6:29)。その彼が神様への「いけにえ」の献げ物を行った後、彼の夢の中に神様が現れて「願い事があれば、言いなさい。かなえてあげよう」(5)と言われました。千載一遇のチャンスです。神様からこんなことを言われたら、私たちだったら何を願うでしょうか。富や健康、それこそ不老不死を願うという人もいるかもしれません。しかし、ソロモンは違いました。彼は答えました。

「⁷ 私は未熟な若者で、(王位を継いだとはいえ)どのように振る舞えばよいのか分かりません。⁸ 僕はあなたが^{しもべ}お選びになった民の中の一人ですが、民は多く、その多さのゆえに数えることも調べることもできません。⁹ どう

か、この僕に聞き分ける心を与え、あなたの民を治め、善と悪をわきまえることができるようにしてください」(7-9)。

このようなソロモンの答えは、神様を喜ばせるものでした。それから、神様は続けて言われました。

「¹¹ あなたが願ったのは、自分のために長寿を求めることでもなく、富を求めることでもなく、また敵の命を求めることでもなかった。あなたが願ったのは、訴えを聞き分ける分別であった。¹² それゆえ、あなたの言うとおりに、知恵に満ちた聡明な心をあなたに与える。あなたのような者は、前にはいなかったし、この後にも出ないであろう。¹³ 私はまた、あなたが求めなかったもの、富も栄誉も与えよう」(11-13)

つまり、知恵に満ちた聡明な心を求めた結果、その願いの通りに知恵が与えられ、さらに求めなかった富も栄誉も与えられたというわけです。実に気前の良い神様です。

「⁹ 神はソロモンに、非常に豊かな知恵と英知、そして海辺の砂浜のような広い心をお与えになった。～(中略)～¹² ソロモンは三千の箴言を語り、その歌は千と五を数えた。¹³ レバノンの杉から、石垣に生えるヒソプに至る草木について論じ、獣や鳥、這うものや魚について語った。¹⁴ ソロモンの知恵を聞きつけたあらゆる国の王のもとから、その知恵を聞こうとあらゆる民がやって」(5:9-14) 来るようになりました。

その後、ソロモン王の所には、様々な困りごと、裁判の相談もやってくるようになり、ある時には一人の赤ん坊を巡って、それぞれに「自分の子どもだ」と主張を譲らない二人の女性が、どちらが本当の母親であるかを判断してもらったというお話もあります(3:16-28)。大岡越前の「大岡裁き・子どもの争い」とそっくりですが、最終的には自分の主張の正しさよりも、その子どもの命を守ろうとした女性の方が本当の母親だと見抜いたというお話です。

さてそのような「知恵」ですが、聖書の中には「老いた者には知恵がある」という言葉もありました。今日の礼拝の最初にお読みした「招きの詞」です。

「¹² 老いた者には知恵があり／長寿の者には英知があるというが

¹³ 知恵と力は神と共にあり／思慮と英知も神のものである」

(ヨブ 12:12-13)

この言葉は、単純に「歳をとっている人はたくさんを経験しているので物知りだ」ということを言っているのではなく、そもそも知恵と力は神様から与えられるものであると言っています。言い換えれば、「年齢を重ね、長生きをしていくことが出来た、ということ自体が、神様から守られてきたからこそ出来たこと」であって、「歳を重ねるごとに命の源である神様の御許に近づいていく、だからこそ神様からの知恵と力にも近づいていく、神様の懐へと再び還っていく……。」そのようなことなのではないかと思います。

歳をとると、若かった頃に比べて、体も動きにくくなりますし、以前には出来ていたことが出来なくなって、寂しく、また悲しい気持ちになることもあるかと思います。ですが、手に入れ、身に着け、握りしめてきた様々なものを、少しずつ手放していくことを通して、私たちは「本当に大切なもの」に近づいていくのではないのでしょうか。神様の知恵でもある「本当に大切なもの」、それは神様から頂いている命そのものの、なのではないかと思います。

生まれたての赤ちゃんが、目も開かず、足も立たなくても、全身で、与えられた命を輝かせて生きているように、年齢を重ね、年老いていく中においても、日々に命が与えられているということ、それ自体を通して、神様がいつも共におられるということを、周囲に証していくように、用いられていきたいと思います。

神様から与えられる知恵と力、その御心に従って歩むことを求める時、日々の生活に必要なその他の物も全て、必要に応じて備えられて与えられる(マタイ 6:31-33)という神様の言葉に信頼して、私たちは今日もここから、神様によって手を引かれ、導かれて参ります。